



みんなの病院探検

医療安全管理室

医療安全管理室の紹介をさせていただきます。

何をしている部署？患者さまが安全に安心して治療を受けられること、そこに働くスタッフが安全に安心してケアを提供できることに全力で取り組む部署です。おそらく想像した通りかと思います。でも具体的に何をしているのかイメージしづらいですよね。実際の業務では、繰り返し起きていたヒヤットした事例を分析して重大な医療事故に繋がらないようスタッフに注意を促したり、ミスをしてしまった事例を採り上げ、該当の部署と業務の改善につながることはないかを一緒に考えるなど現場の後方支援に努めています。

今年度の取り組みの1つを紹介させていただきます。



「指さし呼称」です。指さし呼称とは、鉄道や製造業などで活用される「単純なミス防止」の基本動作になります。「見る」「指す」「声にだ

インシデントレベル2以上が100件以上減る方法を教えます！

指さし・声出し

声を出す 耳で聞く 指さす 見る

「指さし・声出し」をすることで脳の活性化が3倍以上になると言われています。よく取り上げられる実験として、40歳前後と20歳前後の両方による数値測定実験があります。「指さし・声出し」をともに行なった場合に比べ、ともに行った場合の誤り発生率(10%)にまで減少したそうです。

最近の文脈においても「声出し指さし」の重要性は読書、演説、教壇など様々な分野で顕著されています。「指さし」「声出し」は間違い防止に有効な方法です。

指さし呼称を朝礼で実践し意識して取り組んでみましょう！

指さし呼称！菅院長も実践しています！

臨床医師も実践中！

指さし・声出しでみんなの安全を守ろう！あなたの「指さし」が自己を防ぐ第1歩です！

三重病院 医療安全推進担当者部会

す(それを耳で聴く)」という3段階で行うことで注意力を高めめます。医療現場でも「患者さまのお名前を確認する時」「お薬の確認」「医療機器の操作確認」などあらゆる場面で有効とされています。「人は誰しも間違えることがある」ことを前提に、単純なミスを防ぐため「指さし呼称」をスタッフ全員で強化をしております。

患者さまにも安全で安心な医療の提供に向けて協力を頂くことが必要とされており、お名前や生年月日の確認、リストバンドの装着などのご協力をいただいております。これからも防ぐことのできるミスゼロを目指し、職員一丸となり安全・安心な治療環境を提供し続けます！

(医療安全係長 武岡 良展)

次回は
医療福祉相談室
です

糖尿病ワンポイントアドバイス No.19

アドボカシーとスティグマ

「アドボカシー」や「スティグマ」という言葉を聞いたことがありますか？また、この言葉にどのようなイメージを持っていますか？

アドボカシーとは、「困っている人や声を出しにくい人の代わりに、社会に伝えること」です。例えば、糖尿病では、患者さんが安心して治療を続けられるように「学校や職場で血糖測定やインスリン注射を安心してできる環境を整えてほしい」と伝えることがアドボカシーになります。

スティグマは「偏見」や「誤解」のことです。糖尿病についても「甘いものを食べすぎた病気」「自己管理ができない人の病気」といった誤ったイメージが広がることがあります。でも、糖尿病は体質や遺伝なども関係する病気です。決して本人の努力不足だけが原因ではありません。こうした偏見があると、患者さんが病気を周囲に伝えにくくなり、治療や支援を受けにくくなってしまいます。さらに、患者さん

自身が無意識のうちに糖尿病である自分を責めてしまい、結果的に恥ずかしさや孤独感を抱くことも糖尿病のスティグマです。いずれも個人や社会の無理解が原因となっています。

だからこそ、アドボカシーが大切です。正しい知識を広めることで、偏見は少しずつ減り、患者さんが安心して治療を続けられる社会に近づきます。また、患者さん自身も病気とその治療を正しく理解しようとする主体的な姿勢が重要になってきます。

糖尿病に対するスティグマに気づいたら「本当にそうかな？」と考え直すことが大切です。そして正しい知識を学び、周りに伝えることが、アドボカシーにつながり、スティグマを減らす力になります。

なお、日本糖尿病学会・JADEC(日本糖尿病協会)の各理事会において、糖尿病に対するスティグマ解消の一助として「ダイアベティス」をあらたな呼称案として検討が進められています。

(調剤主任 山本 高範)